

本年度の研究課題及び検討事項

1. キャリア教育の実践について
 - ・「能勢地域小中高一貫キャリア教育シラバス」「2008年度キャリア教育アンケート集計」「2009年度キャリア教育実践集」の紹介
 - ・小中高のキャリア教育を「能勢高校への進学」につなげる“仕掛け”を考える
 - ・「能勢高の先輩が話をする会」や「能勢高体験入学」などで、子供の心を動かす
2. 連携型一貫入試について
 - ・「簡便な入試」が「能勢高校への進学希望者が勉強しない」ことの原因の一つになっていないか。
 - ・「基礎的な学力」は高校卒業時の進路保障に欠かせない
 - ・「論文入試」は一貫校の宿命と考えて、高いレベルの論文作成力育成を目指すべきである

10月12日（火）能勢高校にて第一回の進路指導部会を行い、上記の検討事項を確認した。

しかし、1月21日（金）の第二回の進路指導部会においては「H23年度大阪府高等学校前期日程入試選抜進路希望調査」の発表を受けて（能勢高校への希望者数が大幅な定員割れの恐れ）、能勢高校への進学希望につながる「能勢高校のセールスポイント」は何か？また、「能勢高校への進学希望者数が伸び悩んでいる理由」を考察した。そして、今後の有効な対策として考えられることを出し合った。

○能勢高校の「セールスポイント」

- ・少人数でしっかり面倒を見てもらえること。
- ・進路実績にも結果は出ている「高校での学力の伸び率の高さ」。
- ・能勢高校に対する「マイナス」のイメージを聞くことはかなり少なくなった。
- ・大学進学希望者に安心して来てもらうための「系列改定」を行ったこと。

○能勢高校への進学希望者数が伸び悩んでいる理由を考察する

- ・「簡便な入試」なので「勉強しなくても入れる学校」という負のイメージ。
- ・「能勢高校で大学進学は本当に大丈夫か」という根強い中学生・保護者・塾の見方。
- ・毎年定員割れなので、後期入試で勝負して駄目だったら能勢高校二次募集という考え方。
- ・「私学助成金」の影響で、特に大学接続連携私学への専願希望が大幅に増えたこと。
- ・「都会へのあこがれ」と「出身校ネームバリュー」の意識が能勢高校選択を邪魔していること。

○今後の対策等

- ・「基礎学力は将来にわたって必要である」ことを理解させて、しっかり学習させる必要がある。
- ・中学三年生になってから考えさせるのではなく、もっと早くから（小学校も含めて）能勢高校の良さを伝えていく取り組みが必要である。
- ・保護者が、能勢高校教員から少人数グループの座談会形式で話を聞く機会があれば、もっと能勢高校の良さが伝わる。